



「夢への挑戦」講演会 夢をつなぐ

将来の夢を見ながら、現実問題に直面し模索する多感な中学2年生の頃。市教育委員会では、昨年度から中学2年の皆さんに、諦めることなく自分の力を発揮してほしいと、第一線で活躍する著名人の熱いエールを届けています。

9月1日、市民文化センターで「夢への挑戦」講演会が開催され、市内中学2年生ほか約700人の生徒が参加し、熱心に聴講しました。

昨年に続き2回目となった今回は、平成22年にスペースシャトル・ディスカバリーに搭乗した宇宙飛行士の山崎直子さんが講師となり、「夢をつなぐ」と題して講演しました。

山崎さんは、脳科学的に『動くことで脳が刺激を受けて、やる気が出てくる』ということを紹介しながら、「迷ったら、何でもいから動いてみる。違っていたら、また動く。そうして道がついてくる」と体験を交えて話し、「素晴らしいという英語は、未知が(WONDER)たくさん(FUL)ということ。宇宙も、人生も同じ。未知の可能性、この余地が素晴らしい。諦めずに動いて、自分の道をつくりましょう」と呼び掛けました。

講演の後は、たくさんの質問を受けました。山崎さんは、その都度、質問者の近くまで駆け寄って丁寧に答え、握手をして「応援しています」と声を掛けました。山崎さんのバイタリティーと思いやりあふれる回答に会場は沸き立ち、生徒たちの瞳が輝いていました。

講演会の最後に、生徒を代表して十和田中学校の工藤陸くんが、「僕は野球部です。やる気がないとチームの雰囲気が悪く、やる気を持つことが大事ということが改めてわかりました。将来の夢があるので、今日をきっかけにもっと自分で考えて行動していきたいです」と、しっかりとお礼を述べました。



像したり、本を開いたりして、自分のものにしてほしいと思います」と話し、いかに声だけで伝えるか、努力を惜しまない様子です。

この活動に昨年度から取り組む深持小学校(苦米地庸子校長)は、素地があると自認する読書活動と、そこから展開する体験活動に重点を置いた取り組みを進めています。

昨年は、絵本作家でタレントの志茂田景樹さんを招いて「もっと本好きになるお話し会」

と題した読み聞かせを行いました。森靖教頭は「子どもたちは以前から志茂田さんの本に親しんでいたのですが、当日は作者が登場してびっくり。素晴らしい表現力で物語の世界に引き込まれていきました。著名人への依頼でしたが、『小さな学校ですが、日本一、好きな子どもを目指しています』と説明したら快諾して頂きました。学習として札状を書き、交流が続きました」と笑顔を見せます。

また、同校では月1回の『家庭読書の日』に読むと、1ページ1ポイントとして家族で貯められる『読書貯金』を考案。全校児童の家庭が積極的に参加し、読書量が増大しています。苦米地校長は「学力向上はもちろんです。読書を切り口に、多くの経験を積んで、生きる力につなげてほしい。昨年からの取り組みによって企画が実現でき、ありがたい」と話します。

頑張る子どもたちに 声援を

今、市立の全小中学校が取り組む、創意工夫による『日本一の特長ある教育活動』。「子どもたちが、地域や学校に誇りをもって未来に羽ばたき、自信を持って生きてほしい」と、米田省三教育長はこの活動に込めた思いを述べています。

この他にも、市では中学2年生に、夢に向かって努力する勇気を伝えようと、第一線で活躍する著名人による「夢への挑戦」講演会を行っています。

はつらつと活動する小中学生。学校や子どもたちの活動に注目すれば、頑張る姿が目に見えてきます。

子は宝。まちの宝でもあります。私たち地域の大人は育む力を発揮して、頑張る子どもたちの成長を応援しましょう。

学校挙げて創意工夫し、家庭や地域のかたが呼応して取り組む『日本一好きな子どもがあふれる学校』を目指した活動は、しっかりと同校に息づいています。



あらやしき まい
新屋敷 真生さん
(当時沢田小6年)

質問) 行きたくなる市にしたいと考えます。十和田湖で家族が楽しめる施設や体験メニューを増やしたらどうでしょうか。

「こんなことができれば」「こんなことを遊べたら」…小学生以上を対象に、十和田湖の体験型旅行商品のアイデアコンテストを開催し、商品化を図ります。コンテストは11月8日(日)に、十和田湖観光交流センター「ぶらっと」で行います。ご注目ください!

観光推進課 ☎ 6772



今年度は中学校として初めて第一中学校が、修学旅行先での十和田製品のPR活動の取り組みを開始しました。7月8日には、生産者や加工施設を訪問し事前学習を実施。今後は伝統工芸について学習するなど11月の本番まで準備を進めます。



7月20日から22日にわたり、小山田市長が青森県台湾セールスプロモーションに参加し、台湾の旅行代理店や航空会社を訪問しました。現地では本市観光ホテル事業者とともに資料を使いながら市の魅力を紹介しました。



まえだ こおや
前田 晃央也くん
(当時南小6年)

質問) 観光客がたくさん来て有名な市にしたい。市民が、自分たちでできる方法でPRしてはどうでしょうか。

市や市民が、それぞれの立場で、まちを発信する取り組みを行っています。

26年度

ひらの さやか
平野 里也加さん
(当時南小6年)



質問) 市民みんなが市の歴史や文化を知り、残していく努力が大切です。市の成り立ちや観光名所、文化などを内容とした「十和田検定」を行ってはどうでしょうか。



小学5・6年生を対象に、市について学び、様々な魅力を知ってもらうために「第1回ゆるりら、十和田子ども検定」を実施します。問題集と解説は「ゆるりら、十和田子ども検定」公式ホームページに掲載しています。10月9日(金)まで、受検申し込みを受け付けています。

☎ スポーツ・生涯学習課 ☎ 2318

25年度

追跡 「とわだ子ども議会」

議会を模擬体験する「とわだ子ども議会」が、これまで2回開催されました。現在、子ども議員の質問にちなんだ事業がいくつか進捗しています。次代を担う子どもたちも参加するまちづくり。その一例をご紹介します。